【令和元年１０月】

各活動団体の取組及び効果の紹介

※令和元年度新規活動団体含む（2地区）

令和元年度　多面的機能支払交付金

第１回　活動事例発表会及び意見交換会

【令和元年１０月２３日】

南河内地域

大阪府農空間保全地域協議会

【富田林市東条地区　そば畑】

令和元年度　多面的機能支払交付金

第１回　活動事例発表会及び意見交換会

【令和元年１１月８日】

泉北地域

大阪府農空間保全地域協議会

【長峰地域航空写真】

令和元年度　多面的機能支払交付金
第１回　活動事例発表会及び意見交換会
【令和元年１１月１２日】
三島・豊能・北河内地域
大阪府農空間保全地域協議会
【三島江秋桜】

令和元年度　多面的機能支払交付金
第１回　活動事例発表会及び意見交換会
【令和元年１１月１３日】
泉南地域
大阪府農空間保全地域協議会
【泉佐野市】

イベントや景観形成による地域のつながりの構築

サンガマキチクノウクウカンホゼンキョウギカイ（オオサカフタカツキシ）
三箇牧地区農空間保全協議会（大阪府高槻市）

○大阪府高槻市の南部に位置し、稲作のほか、市の特産品である「三箇牧トマト」やキャベツの生産が行われている。
○地域住民とともに水稲耕作前の水田を活用したレンゲ栽培、休耕田を利用したコスモス栽培、緑化・花植活動等の様々な活動を行うことで、地域の景観形成を図るとともに、農空間の価値を認識してもらう都市交流活動を実施している。

【地区概要】
・取組面積
104.1ha（田100.3ha、畑3.8ha）
・資源量
開水路34.5km、農道14.0km
・主な構成員
農業者、自治会、小学校等
・交付金　3,083,500円（R元）

活動開始前の状況や課題

○大阪府高槻市の南部に位置し、稲作のほか、市の特産品である「三箇牧トマト」やキャベツの生産が行われている。

○一方、農業者の高齢化や担い手不足により農業施設の維持管理や地域保全が課題となっている。

地域に広がる農地と三箇牧トマト

取組内容

○地域の交流として、レンゲの里やコスモス栽培の場を一般開放することで、自然のふれあいを創出。

○加えて、春に「チューリップフェスタ」、秋に「緑化フェスタ」を毎年開催している。

水路清掃

レンゲまつり

チューリップフェスタ

緑化フェスタ

取組の効果

○地域の景観に関する意識が向上し、不法投棄などが少なくなった。

○一般に公開する様々な取組により、広く交流が図られるとともに、農空間の保全につながっている。

花一杯運動

農業体験

地域とのつながり

地域を彩る景観

学校教育と連携した生態系保全

タカツキトウブノウクウカンマモロウカイ　（タカツキシカスガチョウ）
高槻東部農空間守ろう会（大阪府高槻市）

○大阪府高槻市の東部に位置し、稲作のほか、市街地への近接性を活かした朝市等も活発に行われている。
○地元農家と自治会の協働による良好な営農環境の保全を通じて、多面的機能を有する農地と都市との共存を図っている。
○また、学校と連携した地元小学生の農業体験のほか、水源である淀川河川敷のヨシ郡を題材として生態系や水質保全について小学生に伝えている。

【地区概要】
・取組面積
　48.9ha（田46.6ha、畑2.3ha）
・資源量
　開水路15.2km、農道3.7km
・主な構成員
　農業者、自治会、小学校等
・交付金　1,443,700円（H30）

活動開始前の状況や課題

○大阪府高槻市東部に位置し、稲作のほか、市街地に接性を活かした朝市等も活発に行われている。

○一方、農業者の高齢化担い手不足により農業用施設の維持管理や地域保全の負担が増加している。また、良好な営農環境の維持等について、都市住民の理解を得ることが課題となっている。

地域の状況

取組内容

○地元農家や自治会の協働による水路の泥上げや草刈りを行っている。
○地区内小学校において、水路・ため池の生き物調査や水質調査等の出前授業を実施し、身近なため池や水路の需要性を伝えている。
○また、水源である淀川河川敷のヨシ郡を題材とした講義やよしずづくり体験を通して、伝統的な活用方法や生態系・水質保全の重要性について、小学生に伝えている。

田植え体験

取組の効果

○地元農家と自治会の協働により水路の泥上げや草刈活動等により、営農環境が改善された。

○学校教育と連携した生態系や水質保全に関する講義は好評であり、延200名以上が参加し、生態系保全に対する理解の増進や啓発につながった。

講義風景

景観形成活動による地域資源の維持管理

下音羽農空間まもろう活動組織（大阪府茨木市）

○　本地域は、淀川北の大阪府北部に位置する茨木市の中でも北部の山間部に位置しており、地区の大半は山林で、小河川に沿って傾斜の大きい棚田が残る農村地域である。加えて、農業耕作面積が1ha未満の農家が大半を占め、少子高齢化が進んでいるため、地域ぐるみで、農空間をまもる必要があった。

○　本取組により、地域間交流の促進が図られるとともに、農道や水路の維持管理のほか、アジサイによる景観形成活動を通じて、地域住民の農村環境保全への意識の向上につながる。

【地区概要】
・取組面積　7.34ha
（田7.24ha、畑0.1ha）
・資源量　開水路2.2km、農道 1.4km

・主な構成員　自治会、見山地区都市農村交流活動推進委員会

・交付金　約22万円(H30)

活動開始前の状況や課題

○　少子高齢化による人手不足で水路の泥上げや農地法面の草刈やアジサイの維持管理（剪定、植栽）にかかる負担が増大し、作業の継続が困難な状況であった。

○　獣害柵の老朽化により、獣害被害が増加し、営農意欲の減少につながるおそれがあった。

【本取組の対象農地】

取組内容

○　水路の泥上げ、農用地法面の草刈、アジサイの剪定や植栽、鹿侵入被害防止のための電気柵の点検及び設置を共同活動として実施した。

【法面の草刈】

【電気柵の設置】

取組の効果

【地域の景観を向上】

○水路・農道とともに、アジサイを適正に管理し、良好な環境を維持することができた。

○取組を通じ、地域住民の農村環境保全への関心の向上につなげ、保全管理する人材の確保を行うことができた。

【景観形成活動】

農地維持活動・景観形成への推進

浜農空間まもろう活動組織（大阪府豊中市）

○全域市街化区域の豊中市において、比較的農地が一団となりまとまっている地域。
　生産緑地と市街化区域農地が混在し、主に水稲を栽培。
○都市部の農地であるため、自家消費農家が大半を占めるが、エコ農産物の生産や地元で採れた農作物による食育イベントなどを実施。
○景観作物の栽培・啓発活動により、住民の都市農業への理解を促進。

【地区概要】
・取組面積 3.57ha
　（田2.44ha、畑1.13ha）
・資源量　開水路 3.1km、
　農道 1.7km
・主な構成員　農業者
　社会福祉団体役員等
・交付金　95,800円（H30）

活動開始前の状況や課題

○全域市街化区域のため、混住化が進む。

○相続等のため、農地転用が発生し、対象農地が減少。

○農業施設の維持管理に関する、都市住民の理解が希薄。

取組内容

○主に農業用水路の清掃活動。

○景観作物植栽と啓発活動。

○農道の草刈り。

取組の効果

○従前の活動を維持しつつ、周辺住民の 参加により農業への関心が高まった。

○地元で採れた農作物による食育イベント等を今後も展開し、都市農業の重要性をPRしていく。

集落で行う農業用施設機能の維持・増進を図る取組

のせちょうにしちいきのうち・みずかんきょうほぜんそしき
能勢町西地域農地・水環境保全組織（大阪府能勢町）

○能勢町西地域にある19集落により組織され活動を行っている。
○当地域では昭和50年代後半より順次ほ場整備事業が進められ、工事完了後30年が経過しており、農業用施設（農道・水路等）の老朽化が課題となっている。
○補修作業は、主に年に２回春と秋に実施される共同作業により施工されている。
○近年は豪雨による補修作業が増加している。

【地区概要】
・取組面積291ha （田289ha畑2ha）
・資源量　開水路 170.6km
　　パイプライン　3.0km
　　農道 35.2km
　　ため池20箇所
・主な構成員　農業者、自治会
　　土地改良区　等
・交付金　　約8,700千円(H30)

活動開始前の状況や課題

○施設の老朽化に伴う維持管理作業の増加。

○豪雨による補修作業の増加。

共同で実施する機能診断・補修

○地域の農道は、通学路など生活路を兼ねた路線も多くあることから、地域住民が共同で機能診断を実施することにより、計画的に補修箇所の優先順位が決定されている。

○コンクリート舗装による補修

活動の効果

○施設の維持管理に交付金を活用することにより地元負担の低減が図られた。
○施設の維持管理作業(農道の草刈り・砕石簡易補修など)により、農機具の乗り入れが容易になり、農作業や農道の点検作業の効率化がはかれ農業生産効率向上が期待される。
○地域住民(非農家等)の参加により、農地等の有する機能・保全に対する意識が一層深まるとともに、農村コミュニティーの形成に効果が見られた。
○今後、農業生産効率の向上により担い手への農地利用集積が期待される。

集落で行う農業用施設機能の維持・増進を図る取組

のせちょうひがしちいきのうち・みずかんきょうほぜんそしき
能勢町東地域農地・水環境保全組織（大阪府能勢町）

○能勢町東地域にある18集落により組織され活動を行っている。
○当地域では昭和50年代後半より順次ほ場整備事業が進められ、工事完了後30年が経過しており、農業用施設（農道・水路等）の老朽化が課題となっている。
○補修作業は、主に年に２回春と秋に実施される共同作業により施工されている。
○近年は豪雨による補修作業が増加している。

【地区概要】
・取組面積254ha （田253ha畑1ha）
・資源量　開水路 132.4km
　　農道 28.4km
　　ため池　30箇所
・主な構成員　農業者、自治会
　　土地改良区　等
・交付金　　約7,630千円(H30)

活動開始前の状況や課題

○施設の老朽化に伴う維持管理作業の増加。

○豪雨による補修作業の増加。

共同で実施する機能診断・補修

○地域の農道は、通学路など生活路を兼ねた路線も多くあることから、地域住民が共同で機能診断を実施することにより、計画的に補修箇所の優先順位が決定されている。

○コンクリート舗装による補修

活動の効果

○施設の維持管理に交付金を活用することにより地元負担の低減が図られた。
○施設の維持管理作業(農道の草刈り・砕石簡易補修など)により、農機具の乗り入れが容易になり、農作業や農道の点検作業の効率化がはかれ農業生産効率向上が期待される。
○地域住民(非農家等)の参加により、農地等の有する機能・保全に対する意識が一層深まるとともに、農村コミュニティーの形成に効果が見られた。
○今後、農業生産効率の向上により担い手への農地利用集積が期待される。

地区全体で農地を守り、遊休農地の発生防止と抑制を

とりがいはっちょう
鳥飼八町農空間保全活動委員会（大阪府摂津市）

○大阪府北部の都市化が進む水田地帯。兼業農家の高齢化により、農地の休耕化が目立ち、遊休化が懸念されていた。

○地区内の農地は地区で守ることを目的に、実行組合、自治会と連携し。H27年度から水路や休耕地の草刈りを実施し、高齢化等で手入れの行き届かない農地管理の補助を実施。

○これにより、地区内で農地の保全管理に取り組む意識が徐々に向上。

○保全活動メンバーが人、人農地プランの中心経営体となり、なにわの伝統野菜鳥飼なすの栽培を平２９年度から開始。

【地区概要】
- 取組面積9.32ha
  （田9.25ha、畑0.07ha）
- 資源量　開水路4.1km、
- 主な構成員　自治会、土地改良区
  NPO
- 交付金　278,900円(H30)

活動開始前の状況や課題

○ ほとんどが兼業農家であり、高齢化による休耕地(管理地)が徐々に発生。

○ 誰かに任せたい、お願いしたいとの気持ちがあっても、人にはお願いできない雰囲気が地区内にあった。

■… 地区内の休耕地

取組内容

○ H27年度から水路の管理等を開始。

○ 休耕地の把握、所有者との情報交換を開始。

○ H28年度から休耕地の除草等を実施する。

【水路の清掃】

【休耕地の草刈】

取組の効果

○ 地区全体で、農地を守る意識が向上。

○ 人農地プランの中心となる経営体と地区内の農業者との間に利用権が設定される。

○ 地区内居住者の休耕地は、H27年度、21筆、8,437㎡。H28年度に解消に向けて着手した面積は369㎡。

遊休農地の発生防止・抑制への推進

まき
牧農空間まもろう会（大阪府豊能町）

○牧農空間まもろう会は、農業者及びその他の参画者により農地・農業用水等の資源や地域環境の保全を実施し、地域住民により継続的に資源が守られていくように誘導・指導する。

○この活動により、地区内の農地・農業用水路等の資源や地域環境の保全が図られてきた。

○本活動への参加者の多くが農業者を占め、農業者同士が地域で環境保全に取り組む意識も向上。

【地区概要】
・取組面積16.47ha （田16.47ha）
・資源量　開水路9.2km、
　　農道8.7km
　　ため池5箇所
・主な構成員　農業者、自治会
・交付金　　約49万円(H30)

活動開始前の状況や課題

○ 地区内農業者の高齢化に伴い農業用施設の管理・補修が困難に。

○ 営農環境の悪化や管理不足による獣害被害、担い手の減少等により、今後遊休農地の増加の恐れがあった。

取組内容

○ H27年度から共同による施設の点検補修を実施。
○ ため池の草刈り、泥上げを実施。
○ 獣害防止柵の点検・補修を実施。
○ 景観形成と法面保護(モグラ対策)のため、彼岸花を植栽。

【ため池草刈作業】

【草刈後】

取組の効果

○ 獣害柵の点検や水路補修等の共同作業を行うことにより地域の密着化が深まった。

○ 地域住民が一丸となって活動に参加し、農地・水路・ため池等の保全に係る理解が、推進。

○ 景観形成活動を通して、外部の人を地区に呼び込み、地域の活性化につながりつつある。

【補修された水路】

穂谷地区の地域資源・環境保全の推進

ほたに
穂谷地区農空間保全協議会（大阪府枚方市）

○大阪府の枚方市東部に位置する都市的地域の水田地帯。穂谷地区の地域資源・環境保全を維持するため、地域住民の参画や地域外の団体や市民との連携が必要。
○穂谷地区の農業従事者及び地域住民の連携により、田んぼや畑のほか共同利用施設の適切な保全が行われた。
○多面的機能支払交付金の活用により、各種保全活動に取り組み、構成員である穂谷地区・農業者・穂谷土地改良区の意識向上が図られた。

【地区概要】
・取組面積　26.54ha
（田23.56ha、畑 2.98ha）
・資源量　開水路6.8km
農道5.4km
ため池3箇所
・主な構成員　穂谷地区
農業者
穂谷土地改良区
・交付金　約77万円（H30）

活動開始前の状況や課題

○これまで穂谷地区における農用地・水路・農道・ため池については、農業者により単独的な保全活動が主であった。
○今後、穂谷地区の地域資源・環境保全を図るためには、地域住民・都市住民の参画が必要である。

取組内容

○穂谷地区の農業従事者及び地域住民の連携により、農用地・水路・農道・ため池の草刈や泥上げ等の保全活動を実施した。
○農村文化の伝承と通じた農村コミュニティの強化として、「収穫の秋　穂谷」のイベントを実施した。

取組の効果

○穂谷地区の農業従事者及び地域住民の連携により、遊休農地の発生を未然に防ぎ、農用地・水路・農道・ため池の適切な保全を図った。
○「収穫の秋　穂谷」のイベントに多くの来場があり、穂谷地区の周知が図られた。

農地保全意識向上の推進

田原の郷守る活動組織（大阪府四條畷市）

○　田原の郷守る活動組織の活動地域は、大阪府東部に位置する標高１２０ｍ～２７０ｍの耕地であり、農業者は、ため池の水を利用して稲作をしている。今後、農業振興を図る上で、農業用用排水路の保全管理や、危険地区の清掃等が必要となってくるが、農業者の高齢化や担い手不足などにより農業者が減少する等、多くの課題を抱えている。

○　交付金を活用し、地域住民と協力して、農道の草刈りや農道の保全、また、業者へ委託し危険な場所の補修を行い、効率よく農作業ができる環境を整えた。

【地区概要】
- 取組面積25.58ha
  （田20.64ha、畑4.94ha）
- 資源量　開水路12.5km
  パイプライン1.3km
  農道4km
  ため池6箇所
- 主な構成員　農業者、土地改良区
- 交付金　　約72万円（H30）

活動開始前の状況や課題

○　本地域は、土地の性質上、がけや急坂の法面が多く存在し、周辺を流れる農業用用水路が手入れしにくい場所であることから、農作業に影響を与えていた。

○　農業者の高齢化に伴い、手入れが可能な範囲の減少、また、農業者数の減少により、農業者だけで全ての作業を行うことが難しい状態となっていた。

○　活動組織の会員を対象としたアンケートを実施し、今後についての意向調査を行った。

取組内容

○　交付金を活用することで、今まではあまり手の届かなかった箇所や、金銭面で負担が大きく、対処が難しかった地区についても作業を行うことができた。

【作業前】

【作業後】

取組の効果

○　農道の草刈及び整備に50人が参加し、農道の保全を促進を図った。

○　水路清掃の活動に46人が参加し、溝の泥上げや草刈り等を行い、農地維持に努めた。

【作業中】

イベントや景観形成等を通じた交流活動の展開

とうじょう
東条農空間保全協議会（大阪府富田林市）

○本地区は、農地開発事業により整備され、野菜生産団地の形成につながっている。水利関係の維持管理や農業環境の保全活動を行っているが、農家の高齢化に伴い、遊休農地が増えることが予想される。

○小学校と連携してさつまいも掘り等の体験学習を実施するほか、ワンデイウォーキングを開催するなど、地域環境の保全と都市住民との交流に取り組んでいる。

○この活動を通じて、都市住民との交流に取組みながら、良好な農業基盤・農環境である地域資源の保全向上を図っていく。

【地区概要】
・取組面積
63.3ha （田12.5ha・畑50.8ha）
・資源量
開水路19.3km、パイプライン10.9km
農道13.2km、ため池4箇所
・主な構成員
農業者、JA、PTA、土地改良区
その他5団体
・交付金
約139万円(H30)

活動開始前の状況や課題

○本地区は、はくさい、たまねぎ等の周年栽培が盛んである。水路やポンプ 施設が多いため、水利関係を重点的に維持管理している。しかし、農業の後継者不足により、遊休農地の増加が予想される。

水路の泥上げ

共同草刈り

取組内容

○地元の小学生を対象にした農業体験学習(さつまいも掘り)を実施

○ワンデイウォーキングを通じて環境保全活動(ゴミ拾い)を実施

取組の効果

○さつまいも掘りの体験学習に、地元小学校から110人が参加し、収穫の大変さや喜びなど、理解の増進が図られた。

○ワンデイウォーキングに115人 が参加し、ゴミ拾いやコスモス摘みなどを通じて、農空間の保全活用と都市住民との交流が図られた。

子ども達の農業体験学習等を通じた活動の展開

うれし
嬉農空間保全協議会（大阪府富田林市）

○本地区は、農村コミュニティが残るなか、農地保全の強い意識をもっている。しかし、農家の高齢化とともに、遊休農地化が今後進むことが懸念される。

○小学校や保育園等と協力して農業の体験学習等を実施するとともに、休耕地を活用した農薬や肥料を使用しない自然農法を都市住民も参加して実践している。

○この活動を通じて、農業景観を次の世代へつなげていくため、地域共同で農空間の保全に取り組む意識の向上を図っていく。

【地区概要】
・取組面積
　10.2ha（田10.2ha）
・資源量
　開水路2.3km、農道1.7km
・主な構成員
　農業者、町会、農業実行組合、NPO法人
・交付金
　約31万円(H30)

活動開始前の状況や課題

○本地区は、水資源に 恵まれ、良質な米を生産 しており、良好な景観(環境)を維持しようという気運が高い。しかし、農業後継者の目処が立っておらず、遊休農地化が今後進むことを懸念している。

○また、休耕地を活用して、農薬や肥料を使用しない自然農法を都市住民も参加のもと実践し、協働型の農地保全の取り組みを進 めている。

取組内容

○地元小学生や保育園児等を対象とした体験学習を実施

田植え体験

稲刈り体験

取組の効果

○幼稚園、保育園、小学校から189人が農業の体験学習に参加し、作業の大変さや収穫の嬉しさなど、農業の理解増進につながった。

レンゲの摘みとり

○約1haの農地において、自然農法を実践し、農業体験によって農家を目指すきっかけづくりと農地の保全活用を図ることができた。

地域とNPO法人との連携による里山空間の回復

惣代（そしろ）地区農空間保全協議会（大阪府河内長野市）

○　大阪府南東部に位置し、市域の７割が森林で住宅団地が隣接する里山に囲まれた自然豊かな谷あいの米作地域。高齢化の進行と鳥獣被害の増加により耕作放棄田が増え、農村景観が失われつつあった。

○　平成２８年度から多面的機能支払い事業に取り組み、農道や水路の保全管理と農道・生活道路の草刈り、イノシシ対策として防護フェンスや捕獲おりの設置管理を非農業者も含め地域ぐるみで実施し、地域資源と自然の豊かさを後世に残すための活動を積極的に展開。

○　本地域を活動拠点としているNPO法人里山ひだまりファームとの連携で新たな農業の展開が図られている。

【地区概要】
- 取組面積9.86ha
  （田9.15ha、畑0.71ha）
- 資源量　開水路3.4km、
  パイプライン0.1km、
  農道2.5km
- 主な構成員　農家、NPO法人等
- 交付金　約29万円（H30）

活動開始前の状況や課題

○　本地域は市域の中山間部に位置し、稲作を中心としたのどかな棚田風景が続き周辺住民の癒しの場になっている。

○　農業者の高齢化等により耕作されていない農地が増加するなど、風情ある農村景観が失われつつある。

○　また、10年程前から鳥獣による農作物被害が増加し、農業環境保全等の課題解決にも取り組む必要性がある。

空から見た惣代地域

稲作風景

取組内容

○　平成28年度から多面的支払い交付金を活用し、イノシシ対策として防護フェンス張りと捕獲おりをNPO法人と共に設置。

○　農道や生活道路の草刈りを自治会と連携し、地域ぐるみで環境保全を実施。

○　NPO法人里山ひだまりファームの活動を通じ、農地の補修等を計画的に実施し、環境保全が図られている。

防護フェンス張り

捕獲おりの設置

農地の給排水整備

生活道路の草刈り

取組の効果

○　鳥獣被害防止対策活動のフェンス張り作業と捕獲おりの設置で（１２人参加）、地域の環境保全に係る施設が一歩前進。

○　農道等の草刈り作業（２５人参加）を実施したことで、これらの活動を通じ、地域のコミュニティーの活性化にも寄与。

○　NPO法人里山ひだまりファームと共に農業や里山保全活動など、里山生活への関心を高めるための農業体験事業を実施。継続的に取り組むための基盤ができた。

棚田の夕暮れ

稲刈り体験

都市近郊における学習農園活動の推進

みやけちくのうくうかんほぜんきょうぎかい　おおさかふまつばらし
三宅地区農空間保全協議会（大阪府松原市）

○松原市三宅地区は大阪府松原市の北部にあり、大阪市に隣接した農業地帯である。都市近郊農業の立地を生かし、軟弱野菜やナス、トマトなどの野菜の生産が盛んである。

○農業従事者の高齢化および担い手不足により、遊休農地が増加しつつある一方、地域内には高速道路が建設され、沿道開発が予想されるなど農地の改廃が懸念されている。

○地域住民が一体となった地域農業の振興を目指すとともに、将来を担う子どもたちに、食糧生産や農空間保全等の大切さを認識してもらうため、遊休農地の一部を利用した学習農園事業に取り組んでいる。

【地区概要】
・取組面積 21ha （田21ha、畑0ha）
・資源量　開水路 1.0km、
　パイプライン 5.0km、
　農道 5.7km
・主な構成員　土地改良区、JA、
　小学校 等
・交付金　63万円(H30)

活動開始前の状況や課題

○土地改良区の資金を活用し約27haのほ場整備事業や水路のパイプライン化及び一筆給水整備を行ってきた。

○農業従事者の高齢化及び担い手不足より、遊休農地が増加するとともに、都市農地の景観形成にも支障をきたしていた。

○市街化の進展の中、都市農業を振興し、農地を地域全体で守る取り組みを進めることが喫緊の課題であった。

取組内容

○地域住民や関係団体が一体となった、地域農業の活性化や農地の保全、景観の形成に向けた活動を展開。
・草刈り、農道の補修、水路の浚渫
・コスモス、レンゲの種まき、花の苗植え

○松原市立三宅小学校において、遊休農地を利用した学習農園事業を展開。
・学習農園のゴミ拾い、田植え、案山子設置、稲刈り、収穫祭、リース作りなど

三宅小学校の学習農園活動(田植え)

取組の効果

○多面的機能支払の取り組みは、これまで地域の交流・共同活動に参加していなかった人が活動に参加するきっかけとなっており、地域の活性化や水路、農道、ため池の計画的な保全管理や農地の保全に繋がる。

○将来を担う子どもたちや、活動に関わった地域住民に対し、食糧生産の大切さや、農空間の保全について、意識付けることができる。

○地域住民による話し合いや、共同作業の重要性を認識するとともに、農地保全活動を通じ、農業振興や地域活性化の気運が上がる。

都市住民との共同で資源保全へ

かなんせいぶのうくうかんほぜんきょうぎかい　おおさかふみなみかわちぐんかなんちょう

河南西部農空間保全協議会（大阪府南河内郡河南町）

○河南西部農空間保全協議会は、平成１６年度に完成した農地開発区域内で活動している。

○この活動により、施設の維持管理が活動開始以前は土地所有農家のみであったものが、平成２８年度には都市住民の体験農園者も作業に参加することになり、所有者の３倍の人数で維持管理することになった。

○これにより、水路の土砂上げで終わっていたものが、点検まで行き届くようになった。

【地区概要】
- 取組面積47ha （田7.5ha、畑39.5ha）
- 資源量　開水路7.7km、パイプライン10.1km、農道3.4km
- 主な構成員　土地改良区、農事組合法人、自治会、水利組合
- 交付金　約102万円(H30)

活動開始前の状況や課題

○ 本地域は、昭和57年から実施した農地開発事業の区域で実施しているため基盤整備は出来ているものの、当初に出来上がった施設の老朽化が目立ち始めてきている。

○ また、土地所有者の高齢化、後継者の農業に対する意識の希薄などが問題となっていた。

陥没している農道

土砂が堆積した水路

取組内容

○ 水田には水利組合があり、定期的に維持管理出来る組織があるが、畑地には組織が無いため他人任せになっていた。そこで、畑地にも管理組織を作り対象者全員で維持管理するように取り組んだ。

○ 高齢土地所有者の農地や耕作管理が出来ない農地を都市住民に体験農場として貸出、遊休農地の未然防止とした。

畑灌漑部会区画表

都市住民による体験農業

取組の効果

○ 畑地に管理組織を発足させたことにより農業に無関心な後継者も水路清掃に参加することで農空間の保全への関心を高めている。

○ 水路清掃箇所を細分化したことにより農家の分担は増えたが、その分体験農園に参加している都市住民も清掃に加わることで絆が深まった。

[参加者　当初約75名　　現在　約250名]

土地後継者も参加した清掃活動

都市住民も参加した清掃活動